

新国立劇場 2018/2019 シーズンオペラ

ジュゼッペ・ヴェルディ

ファルスタッフ

Falstaff

2018年12月6日(木)~12月15日(土)

会場:新国立劇場オペラパレス 2018年8月25日(土)発売



新国立劇場『ファルスタッフ』2015年公演より 撮影:寺司正彦

人生を笑い飛ばす、極上の喜劇！

巨匠ジョナサン・ミラー演出、フェルメール調の舞台、一流歌手たちの至芸の競演、見どころがぎゅっと詰まった傑作喜劇。

オペラの巨人ヴェルディがシェイクスピアの『ウィンザーの陽気な女房たち』をもとに、人生最後に手がけた喜劇『ファルスタッフ』。ドラマも音楽も無類の楽しさでいっぱいです。巨匠ジョナサン・ミラーの演出は、17世紀オランダ絵画に描かれた民衆の日常を踏まえ、深い人間洞察が感じられる名舞台です。緻密な構図、静謐な色遣いの舞台はフェルメールの風俗画から飛び出したよう。愛すべき人々が繰り広げる小気味よい喜劇は、まさに大人の人間賛歌そのものです。

キャストには、今日随一の名ブッフオであるロベルト・デ・カンディアの題名役、日本でも絶大な人気のソプラノ歌手エヴァ・メイのアリーチェなど、ファン垂涎の歌手が揃いました。指揮はイタリアオペラの名手カルロ・リッツィ。名人たちの至芸の饗宴、極上の大人のエンターテインメントが年末の東京を彩ります！

＜資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ＞

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

この世はすべて冗談！人生を笑い飛ばす、ヴェルディ最晩年の傑作喜劇。

悲劇で名声を極めたヴェルディが、シェイクスピアの『ウィンザーの陽気な女房たち』『ヘンリー四世』を原作に、人生最後に手がけたのが極上の喜劇『ファルスタッフ』。無類の楽しさと人生哲学にあふれた、世に生み出されたのが奇跡のような傑作です。強欲だが愛すべき老騎士ファルスタッフを中心に、快活で機知あふれる女性陣や若いカップルらが繰り広げるストーリー。音楽的なユニークさで先進的で、ファルスタッフの自己中心的ながら憎めないキャラクター滲み出すモノローグ、女性陣×男性陣×若者フェントンの1幕九重唱、そしてソリスト10人と合唱によるフィナーレの大フーガと、緻密な技法で練り上げられた、わくわくするような音楽がいっぱいです。



特にファルスタッフが口火を切るフィナーレの大フーガ「この世はすべて冗談だ」は、ガラコンサート等でも今やすっかり定番となった、お開きにぴったりのナンバーです。このオペラを聴けば人生前向きになること間違いなし。年忘れにもぴったりです！

名指揮者リッツィ率いる一流歌手達の小気味よいアンサンブルに乞うご期待！

指揮にはイタリアオペラ界で現代を代表するマエストロのひとり、カルロ・リッツィが新国立劇場初登場。リッツィは今回の公演に寄せ「『ファルスタッフ』は奇跡にほかなりません。ヴェルディは新しいものを発想しなければならなかった。その知性の鋭さ、明快さは驚べきものです。『ファルスタッフ』は多くの要求を指揮者に突きつけますが、実際演奏するのはいつも真の喜びです。指揮者にとってはあらゆる面で祝祭といえます。『ファルスタッフ』を日本で指揮すること、この素晴らしい傑作を日本の皆さんと共に追求することは、実に魅力的だと思っています」とコメントしています。

題名役を演じるのは、来日も多く新国立劇場でも様々なブッフオ役を披露してきたロベルト・デ・カンディア。脂の乗り切った彼が得意のファルスタッフを披露するとあっては、オペラファンには見逃せません。さらに、アリーチェ役は日本でも絶大な人気を誇るソプラノ、エヴァ・メイ。名人が揃ってこそ生きるアンサンブル、絶妙な笑いはまさに大人のエンターテインメントとなることでしょう。今年の年末は、新国立劇場の『ファルスタッフ』で笑い収め決定です。

フェルメールの風俗画から飛び出した!? 愛すべき生き活きとした民衆たち

『ファルスタッフ』の演出は、英国ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーやBBCの映像などシェイクスピア作品で特に名高い巨匠ジョナサン・ミラー。哲学者でもあり医師でもある知の巨人ミラーは、シェイクスピアの時代のルネサンス家屋を詳細に記録したものとしてフェルメールの時代 17 世紀オランダ絵画に着目、風俗画に描かれた民衆をつぶさに研究して、舞台上に蘇らせました。

フェルメールといえば 30 数点しかないという作品の希少性もあって、近年世界中に熱狂的なファンがいる伝説の画家。今年はずうと 10 月から東京・大阪で大規模な「フェルメール展」が開催されることも、この秋～冬にはまたフェルメールブームが訪れることでしょう。静謐な色調、光と影の扱い、タイル床や壁に掛けられた絵、調度品といった室内装飾、緻密に計算された舞台構図、衣裳、そしてニュアンスに富んだ人物造形などなど、ジョナサン・ミラー版『ファルスタッフ』にはフェルメールファンには見逃せない要素が盛りだくさんです。ぜひ展覧会と合わせて、「動くフェルメール」『ファルスタッフ』もお楽しみください。



<「ファルスタッフ」あらすじ>

【第1幕】

太鼓腹が自慢の好色な老騎士ファルスタッフは、ページ夫人メグとフォード夫人アリーチェが自分に気があると勘違いし、彼女たちへ恋文を書く。手紙を受け取ったメグとアリーチェは、身の程知らずな内容の上、全く同じ文面であることに呆れ顔。クイックリー夫人ら女性陣で懲らしめようと画策する。一方フォードも、妻アリーチェ宛にファルスタッフが恋文を書いたと従者からの情報を受け、ファルスタッフをやりこめようと意気込む。

【第2幕】

クイックリー夫人が、アリーチェとの逢引きの時間をファルスタッフに伝えて、計画がスタート。フォードは偽名を使い「アリーチェを誘惑してほしい」とファルスタッフに頼む。ファルスタッフは「アリーチェと会う予定だからお安いご用」と語り、フォードは驚愕する。迎えた逢引きのとき、ファルスタッフがアリーチェを口説いていると、筋書き通りメグが来て、彼は慌てて逃げる。そのとき、妻の浮気相手を捕らえようとフォードらが乗り込んでくる。彼がつい立ての向こうを確認すると、そこには娘のナンネッタとフェントンの2人の結婚を認めないフォードは怒り心頭。洗濯籠の中に身を潜めていたファルスタッフは、女性陣のシナリオ通り籠ごと川に投げ落とされる。



【第3幕】

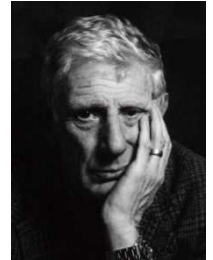
散々な目に遭っても懲りないファルスタッフは、再びアリーチェと会う約束をする。今回の場所は真夜中のウィンザー公園。精霊がさまようと言われる場所だ。約束の時間にファルスタッフとアリーチェが会うと、助けを求めるメグの音が響く。精霊があらわれたと怖がるファルスタッフは目をつぶって横たわる。実はフォードらが妖精を演じているのだが、すっかり怯えたファルスタッフは、これまでのことを謝る。また、女性陣の計らいで、フォードもナンネッタとフェントンの結婚を認める。ファルスタッフは「この世はすべて冗談」と語って大団円。

**<主要キャスト・スタッフプロフィール>****【指揮】カルロ・リッツィ****Conductor : Carlo RIZZI**

イタリア生まれ。ミラノ音楽院に学び、その後ミラノ・スカラ座の音楽スタッフとして経験を積む。1982年に指揮者としてのキャリアをスタートし、オペラとコンサートの両方で世界中の一流劇場やフェスティバルで活躍している。オペラのレパートリーは広く多くのイタリアオペラを中心に100以上に及び、ワーグナー、リヒャルト・シュトラウス、マルティヌー、ヤナーチェクといった作曲家の作品も手掛けている。オペラでは1992～2001年及び2004～2008年の2期にわたりワルシュ・ナショナル・オペラの音楽監督を務めたほか、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラに頻繁に客演している。コンサート指揮者としても、ブリュッセル・モネ劇場管弦楽団とのチャイコフスキー交響曲全曲演奏をはじめ、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー、ローマ・サンタ・チェチーリア管弦楽団、ハレ管弦楽団など、多くのオーケストラと共演している。最近ではメトロポリタン歌劇場『ノルマ』新制作、パリ・オペラ座『聖スザンナ/カヴァレリア・ルスティカーナ』新制作、ローマ歌劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ/道化師』などがある。またザルツブルク音楽祭でのネトレブコ主演『椿姫』DVDをはじめ、数多く録音・録画が発売されている。18/19シーズンはメトロポリタン歌劇場で『トスカ』『メフィストフェレ』、ワルシュ・ナショナル・オペラ『仮面舞踏会』などを指揮する予定。新国立劇場初登場。

**【演出】ジョナサン・ミラー****Production : Jonathan MILLER**

ロンドン生まれ。医学博士、作家、テレビプロデューサー、演劇・オペラの演出など幅広い分野で国際的に活躍。演劇演出家として、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーの『ヴェニスの商人』『じゃじゃ馬馴らし』や、1988年から90年まで芸術監督を務めたオールド・ヴィック劇場での『リア王』、80年からBBCが制作したシェイクスピアシリーズなど、シェイクスピア作品の演出で高い評価を得る。オペラ演出は74年のアレクサンダー・ゲアーの『Arden Must Die』イギリス初演に始まり、その後もイングリッシュ・ナショナル・オペラなどで活躍、『ミカド』『リゴレット』『ねじの回転』『ばらの騎士』『カルメン』などで大成功を収める。また、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ザルツブルク音楽祭など世界各地で活躍している。新国立劇場では『ファルスタッフ』『ばらの騎士』を演出。

**【ファルスタッフ】ロベルト・デ・カンディア****Falstaff : Roberto DE CANDIA**

イタリア生まれ。ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ・コミック、ベルリン・ドイツ・オペラ、ザクセン州立歌劇場、チューリヒ歌劇場、ローマ歌劇場、ブリュッセル・モネ劇場などの一流歌劇場、グラインドボーン音楽祭、ザルツブルク音楽祭など多くの音楽祭に登場している。ロッシーニを得意とし、多くの役でロッシーニ・オペラ・フェスティバルに出演しているほか、『セビリアの理髪師』フィガロなどで世界中で活躍。近年はレパートリーを広げ、『ファルスタッフ』タイトルロール、『ジャンニ・スキッキ』タイトルロール、『椿姫』ジェルモン、『仮面舞踏会』レナート、『愛の妙薬』ドゥルカマーラなどの役柄を演じている。17/18シーズンはトリノ国立歌劇場『ゴジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、シャンゼリゼ劇場『アルジェのイタリア女』タッデオ、ウィーン国立歌劇場『ドン・パスクワレ』タイトルロール、中国国家大劇院『ファルスタッフ』、ローマ歌劇場『フラ・ディアヴォロ』コックバーン卿、パルマ・ヴェルディ・フェスティバル『ファルスタッフ』、カリアリ歌劇場『仮面舞踏会』レナートなどに出演。18/19シーズンにはノヴァーラ・コッチャ歌劇場で『リゴレット』タイトルロールのロールデビュー、トリノ国立歌劇場『愛の妙薬』、ポローニャ歌劇場『セビリアの理髪師』フィガロ、マドリッド国立歌劇場『ファルスタッフ』、ウィーン国立歌劇場『ドン・パスクワレ』、バルセロナ・リセウ大劇場『運命の力』フラ・メリトーネなどの予定がある。新国立劇場には1999年『マノン・レスコー』レスコー、2002年『セビリアの理髪師』フィガロ、09年『チェネレントラ』ダンディーニに続き待望の登場。



【フォード】マッティア・オリヴィエーリ**Ford : Mattia OLIVIERI**

イタリア生まれ。ボローニャ・G.B.マルティーニ音楽院で学んだ後、マウリツィオ・レオーニに師事、2009年にはボローニャ歌劇場のオペラスタジオに入る。2008年にボローニャ歌劇場でデビュー後、ロッシェニ・オペラ・フェスティバルアカデミーを皮切りに、ミラノ・スカラ座、ヴェローナ野外音楽祭、トリエステ・ヴェルディ劇場、パレルモ・マッシモ劇場、ブレゲンツ音楽祭、ヴァレンシア歌劇場、マルティーナ・フランカ音楽祭、サンパウロ歌劇場などに次々と登場している。レパートリーには『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『ラ・ボエーム』マルチェット、シヨナル、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『愛の妙薬』ベルコーレ、『カルメン』エスカミーリョ、『セビリアの理髪師』フィガロがある。17/18シーズンはミラノ・スカラ座、パルセロナ・リセウ大劇場、ネザーランド・オペラなどに出演。今後の予定に、ミラノ・スカラ座『偽の女庭師』ロナルド、『チェネレントラ』ダンディーニ、バイエルン州立歌劇場『トゥーランドット』ピンなどがある。フォード役は今回がロールデビューとなる。新国立劇場初登場。

**【フェントン】村上公太****Fenton : MURAKAMI Kota**

東京音楽大学音楽演奏家コース卒業。新国立劇場オペラ研修所第6期修了。文化庁在外派遣研修員としてイタリア・ボローニャへ留学。ジュゼッペ・ディ・ステファノ国際コンクールにおいて『リゴレット』マントヴァ公爵役を獲得。シンガポール・リリック・オペラにて『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『魔笛』タミーノ、『サロメ』ナラボート、『椿姫』アルフレードに出演し、好評を博す。東京二期会では『マクベス』マルコム、『チャールダーシュの女王』ボニ、『ダナエの愛』ボルクス、『トリスタンとイゾルデ』メロートで活躍。16年日生劇場『後宮からの逃走』ペドリッコも好演した。新国立劇場では『パルジファル』第1の聖杯騎士、『こうもり』アルフレード、『ばらの騎士』ファーニナル家の執事、『ウェルテル』シュミット、『カルメン』レメンダードに出演、特に『こうもり』アルフレードは2回連続で出演し高い評価を得た。二期会会員。

**【フォード夫人アリーチェ】エヴァ・メイ****Mrs. Alice Ford : Eva MEI**

イタリア生まれ。フィレンツェ・ケルビーニ音楽院に学ぶ。1990年にウィーン・モーツァルト国際コンクールで『後宮からの逃走』コンスタンツェ役の演奏でカテリーナ・カヴェリエーリ賞を受賞、続いてウィーン国立歌劇場に同役でデビューし国際的なキャリアをスタートさせた。ベルカント・オペラを得意とし、『ドン・パスクワレ』ノリーナ、『タンクレディ』アメイデー、『アンナ・ボレーナ』タイトルロールなどを演じているほか、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『皇帝ティートの慈悲』ヴィットリアなどモーツァルト作品も常に歌い続けている。ミラノ・スカラ座、ベルリン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ザルツブルク音楽祭など世界一流の歌劇場、音楽祭に登場しており、中でもチューリヒ歌劇場にたびたび客演している。ニコラウス・アーノンクール、クラウディオ・アバド、ズービン・メータ、リッカルド・ムーティ、コリン・デイヴィス、ダニエル・バレンボイム、ロリン・マゼールと、共演した一流指揮者は枚挙にいとまがない。最近ではフォード夫人アリーチェでの活躍も多く、ルツェルン音楽祭、ミラノ・スカラ座、ナポリ・サンカルロ歌劇場、ブダペスト、香港などで歌っている。新国立劇場初登場。

**【クイックリー夫人】エンケレイダ・シュコーザ****Mrs. Quickly : Enkelejda SHKOZA**

アルバニア、ティラナ生まれ。生地の音楽院で学んだ後、ミラノ・ヴェルディ音楽院で学び、同年イスタンブール・レイラ・ゲンチェルコンクールで優勝した。その後、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座、シャトレ座、ミラノ・スカラ座、ドレスデン・ザクセン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、パルセロナ・リセウ大劇場、ブリュッセル・モネ劇場など一流歌劇場に定期的に出演し、コリン・デイヴィス、リッカルド・シャイー、チョン・ミョンフン、ジェームズ・コンロン、ダニエル・オーレン、アントニオ・パッパーノ、ファビオ・ルイーダ、ダニエレ・ガッティ、エヴェリーノ・ピド、ドナート・レンツェッティ、カルロ・リッツィらと共演している。近年のレパートリーには『ギョーム・テル』ヘドヴィゲ、『アルジェのイタリア女』イザベラ、『蝶々夫人』スズキ、『イル・トロヴァトーレ』アズチーナ、『アイーダ』アムネリス、『運命の力』プレツィオジッラなどがある。今後の主な予定に、リヨン歌劇場『ナブッコ』フェネーナ、ネザーランド・オペラ『蝶々夫人』スズキ、ナンシー歌劇場『アイーダ』アムネリス、ロイヤルオペラ『連隊の娘』ベルケンフィールド侯爵夫人などがある。新国立劇場初登場。

**【ナンネッタ】幸田浩子****Nannetta : KOUDA Hiroko**

東京藝術大学首席卒業。同大学院、文化庁オペラ研修所終了後、ボローニャとウィーンで研鑽を積む。数々の国際コンクールに上位入賞後、欧州の主要歌劇場へ次々とデビュー。ベッリーニ大劇場『清教徒』エルヴィーラ、ローマ歌劇場『ホフマン物語』オランピア、シュトゥットガルト歌劇場『皇帝ティートの慈悲』セルヴィーリア等で活躍。2000年にはウィーン・フォルクスオーパーと専属契約。同劇場『ファルスタッフ』ナンネッタ、『魔笛』夜の女王等に出演。日本では、二期会『ばらの騎士』ゾフィー等に出演の他、主要オーケストラとの共演や全国各地でのリサイタル、またNHK「気ままにクラシック」のパーソナリティやBSフジ「レシピ・アン」のMC等多彩な活動を展開。第14回五島記念文化賞オペラ新人賞、第38回エクソンモービル音楽奨励賞受賞。新国立劇場には『ナクス島のアリアドネ』ツェルビネッタ、『ホフマン物語』オランピア、『チェネレントラ』クロリンダ、『鹿鳴館』頭子、『夜叉ヶ池』百合などに出演している。18/19シーズンは『ウェルテル』ゾフィーにも出演予定。二期会会員



新国立劇場 2018/2019 シーズン
 ジュゼッペ・ヴェルディ
 ファルスタッフ
 Giuseppe Verdi / Falstaff
 全3幕〈イタリア語上演／字幕付〉

【公演日程】2018年12月6日(木)19:00／9日(日)14:00／12日(水)14:00／15日(土)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:23,760円・A:19,440円・B:12,960円・C:7,560円・D:4,320円・Z:1,620円

【前売開始】2018年8月25日(土)

指揮	カルロ・リッツィ	ファルスタッフ	ロベルト・デ・カンディア
Conductor	Carlo RIZZI	Sir John Falsta	Roberto DE CANDIA
演出	ジョナサン・ミラー	フォード	マッティア・オリヴィエーリ
Production	Jonathan MILLER	Ford	Mattia OLIVIERI
美術・衣裳	イザベラ・バイウォーター	フェントン	村上公太
Set and Costume Design	Isabella BYWATER	Fenton	MURAKAMI Kota
照明	ペーター・ペッチニック	医師カイウス	小山陽二郎
Lighting Design	Peter PETSCHNIG	Dr. Cajus	OYAMA Yojiro
再演演出	澤田康子	バルドルフォ	糸賀修平
Revival Director	SAWADA Yasuko	Bardolfo	ITOGA Shuhei
舞台監督	高橋尚史	ピストーラ	妻屋秀和
Stage Manager	TAKAHASHI Naohito	Pistola	TSUMAYA Hidekazu
		フォード夫人アリーチェ	エヴァ・メイ
		Mrs. Alice Ford	Eva MEI
		ナンネッタ	幸田浩子
		Nannetta	KOUDA Hiroko
		クイックリー夫人	エンケレイダ・シュコーザ
		Mrs. Quickly	Enkelejda SHKOZA
		ページ夫人メグ	鳥木弥生
		Mrs. Meg Page	TORIKI Yayoi
合唱指揮	三澤洋史		
Chorus Master	MISAWA Hirofumi		
合唱	新国立劇場合唱団		
Chorus	New National Theatre Chorus		
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団		
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra		
芸術監督	大野和士		
Artistic Director	ONO Kazushi		

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.jp/opera/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* 乙席 1,620円:公演当日朝 10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引、高齢者割引、障害者割引、学生割引など各種割引あり。* 未就学児入場不可。

★宣材のご提供について…本演目はレパートリー（再演）公演です。過去の上演の記録写真を宣材としてご提供いたします。



【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】



【9】



【10】



【11】



【12】

撮影：寺司正彦